Air Mail

広大から海外へ留学している若手からの便り

米国スタンフォード大学留学便り

今岡　祐輝　　大学院医系科学研究科　医学分野　消化器・移植外科学　特任助教

2022年8月からカリフォルニア州のスタンフォード大学 腹部移植外科へ留学しています。年間120例の肝臓移植が行われるハイボリュームセンターであり、多くの臨床サンプルの収集と解析を行う機会に恵まれています。ボスのKazunari Sasaki准教授の研究室では、肝臓内ナチュラルキラー細胞の抗腫瘍効果の解析や、細胞療法の臨床試験の立ち上げに携わっています。

大学周辺は毎日青天が広がる地域で、シリコンバレーの中心で治安も良いため、家賃が高いという点を除けば留学環境としては申し分ありません。フーバータワーや教会周辺への散歩が日常の悩みを癒してくれます。学校のロゴ入りのパーカーを着る愛校心の強い学生や、起業意識の強い研究者たちに囲まれています。帰国後は、この留学経験を研究科や教室に少しでも還元できればと思っております。

末筆ながら留学機会をいただきました、消化器・移植外科学 大段 秀樹教授や関係者の皆様に感謝いたします。

Kazunari Sasaki 准教授と筆者（写真右側が筆者）

編集後記

2024年は、広島大学の創立75周年、最も古い前身校である白島学校の設立から数えると、150周年にあたります。この節目を祝うため、カープのスポンサードゲームや広島大学in東京、in関西をはじめ、多くの記念事業が企画・実施されています。広島大学創立75＋75周年記念事業のキャッチフレーズは「漕ぎ出せ混沌の海に　走れ創造の彼方へ」です。地球温暖化などの環境問題、新興感染症の蔓延、少子高齢化、戦争や大規模災害など、多くの問題が山積する中で、この記念すべき75+75周年を迎えます。広島大学が100年後にも世界で光り輝く大学を目指し、どのような価値を創造して地域および世界に貢献していくかが、ますます重要になると考えられます。

この度、BioMed News第11号を発刊するにあたり、ご協力いただきました執筆者、編集者ならびに広報委員の先生方に心より感謝申し上げます。是非ご一読いただき、本学の研究力強化の一助となることを切に願っております。

2024年５月　広報委員　岩本　博志

2024年（令和6年）5月発行

編集発行：広島大学大学院医系科学研究科広報委員会
住　　所：〒734-8553 広島市南区霞一丁目２番３号
電　　話：(082)257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）
E-mail：kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp
U R L：https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs